

令和5年度 学校経営計画書

| | | | | | |
|------|----|-----|----------|-----|-------|
| 学校番号 | 38 | 学校名 | 駿河総合高等学校 | 校長名 | 森谷 幹子 |
|------|----|-----|----------|-----|-------|

[校是] 夢を仰ぎて 己を信ず

1 スクール・ミッション

多様な学びを実現する都市型総合学科として、主体性と個性を尊重しつつ他者と協働して学ぶ教育を通して、社会や地域に積極的に参画し貢献する人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

| グラデュエーション・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |
|----------------------------------|---|------------------------------|
| 1 多様な学びを通して、自ら問いを立て探究できる。 | 1 多様な学習活動から学問の基本を身に付け、生涯にわたる持続的な学びを推進する。 | 1 興味関心力が高く、情報を取捨選択できる生徒。 |
| 2 自己と他者を尊重し、主体的・協働的にやり抜く力を身に付ける。 | 2 自らの興味関心や適性、目指す進路に応じた科目を主体的に選択し、教科横断的な深い学びを実現する。 | 2 自己と他者の在り方を認め、主体的に行動ができる生徒。 |
| 3 論理的に考えながら社会に参画し、貢献する。 | 3 社会に関心を持ち、地域貢献を意識した体験と実践を伴う学びを探究的に行う。 | 3 持続可能な社会に向け、未来を考えることができる生徒。 |

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 多様な学習ニーズに対応した資質・能力の向上と主体的に学ぶ態度の育成
- イ 品位ある生活態度の育成と自分の意思を表明できる環境づくり
- ウ 計画的なキャリア支援プログラムによる個に応じた適切な進路の実現
- エ 保健・安全指導の徹底と体力づくりの強化による心身の調和のとれた育成
- オ 自己肯定感を高め、仲間と共に安心して過ごすことのできる学習環境の整備
- カ 人権を尊重し、多様性を認め合う共生・共育による豊かな人間性の育成
- キ 地域連携を推進し、SDGsを意識した他者との協働による社会への寄与
- ク 生徒の学びを支える事務運営の効率化、円滑化と教育環境の充実
- ケ 業務の効率化による生徒との対話時間確保と職員のワークライフバランスの実現

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

| | 取組目標 | 達成方法（取組手段） | 成果目標 | 担当部署 |
|--|--|--|--|----------------------------|
| ア | 多様な学習ニーズに対応した資質・能力の向上と主体的に学ぶ態度の育成 | (1) 年間授業時数の確保に努める。 (2) 取り残しのない授業実践を呼びかけ、不振者補講等を円滑に実施する。 (3) 新学習指導要領による授業・評価を実践するとともに、次年度にむけての研究を促進する。 (4) 外国人生徒に対する支援方法を検討し、可能な支援を実施する。 | (1) 年間授業時数を、28時間以上を確保する。 (2) 全ての生徒が全単位の履修と修得を行う。 (3) 教員アンケートの「主体的に学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの育成に努めている」での肯定的な回答 95%以上 (4) 昨年度よりも支援を拡充する。 | 教務課 副校長 |
| | | Classi を活用し、進路指導課と学年が連携して生徒の基礎学力を養成し、自学自習、能動的学習を支援する。 | 「子どもは家庭での学習習慣が身につけている。」と答える保護者 60%以上 | 進路指導課 3年 |
| | | 探究的な学びを支援する選書、図書のご案内を行う。 | 授業に関する図書購入希望調査、図書委員による選書会など教員・生徒の需要を把握する機会を年3回以上実施する。 | 図書課 |
| | | 職員研修を通して、授業改善に取り組む。 | ・観点別評価、授業改善、人権教育等の研修を年2回以上実施する。 ・授業公開週間を年2回以上実施する。 ・生徒と教員が学習端末をよりよく利用するための研修を年1回以上実施する。 | 研修課 |
| | | 「主体的・対話的で深い学び」、「探究的な学び」を実現させる科目選択指導の総括 | 「本校は、適切な科目選択のために、十分な指導を行っている。」と答える生徒、保護者 90%以上 | 総合学科企画課 |
| | | iPad や Chromebook、ノートパソコンなど ICT 機器の活用 | 「私は、ICT を活用した授業や学習指導を積極的に行っている」と答える教員 85%以上。 | 情報管理課 |
| | | イ | 品位ある生活態度の育成と自分の意思を表明できる環境づくり | 定期的に出欠状況を集計して周知し、問題点を共有する。 |
| (1) いじめの防止等のための基本的な方針に沿った対応をする。 (2) 校則を厳守し、高校生らしいさわやかな髪型、正しい制服着こなしを身につけるために、頭髪・服装指導を年間8回程度行う。 | (1) いじめに関するアンケートを学期に1回（年3回）実施する。 (2) 「私は、髪型や服装等を高校生らしく整えている。」答える生徒 100% (3) 「私は、情報モラルを理解 | | | 生徒指導課 |

様式第1号

| | | | | |
|---|-----------------------------------|--|--|----------------|
| | | (3) SNSやツイッターなどの問題点を生徒が理解するために、スマホ・ケータイについての講習を行う。 | したうえで、適切にケータイ、スマホ、ネット等を利用している。」答える生徒100% | |
| ウ | 計画的なキャリア支援プログラムによる個に応じた適切な進路の実現 | (1) 生徒の多様な適性や希望に対応するため、きめ細やかな進路指導を実施する。特に、2024年度大学入試に向けた情報収集・研究を行う。 (2) 個別面談等を通して、生徒、家庭との情報交換を密にして生徒理解に努め、柔軟できめ細やかな指導を行う。 | (1) 「本校は、各種の進路行事や面談等を通じて進路に関する情報を十分提供している。」と答える生徒、保護者80%以上 (2) 「本校は、生徒一人ひとりに対応した（進路実現に向けた）きめ細やかな進路指導を行っている。」と答える生徒、保護者70%以上 | 進路指導課 |
| | | 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」のカリキュラムマネジメント（企画、提案、調整、準備） | 「私は、総合学科と他学科との違いについて理解している」と答える教員80%以上 | 総合学科企画課 |
| | | (1) 「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」などを有効に活用し、将来を意識した教科選択ができるよう細やかな支援を行う。（1年） (2) 部活動や委員会活動、学校行事、探究的な学習に積極的に取り組ませ、進路実現に有効な実績作りをサポートする。（2年） (3) 進路実現に向けて小論文・面接・受験科目等の個に応じた具体的サポートをする。（3年） | (1) 「私は、自分の考えに基づいた科目選択ができている」と答える生徒、保護者が90%以上 (2) 「本校は、生徒一人一人に対応したきめ細かな進路指導を行っている」と答える生徒、保護者90%以上 (3) 「本校は、生徒一人一人に対応したきめ細かな進路指導を行っている」と答える生徒、保護者90%以上。 | 1年 2年 3年 |
| エ | 保健・安全指導の徹底と体力づくりの強化による心身の調和のとれた育成 | 交通安全指導 ・交通安全教室の実施 ・交通安全街頭指導を実施し、交通ルールとマナー遵守の呼びかけを行う。 ・交通安全テストの実施 | ・交通事故数年間10件以下 ・イエローチケット指導数年間200件以下 ・交通安全に関する確認テスト1年生全員合格 | 生徒指導課 |
| | | (1) 朝食摂取率の向上 ・保健だより、メール配信による生徒・保護者への周知徹底。 ・保健委員会によるアンケート実施と分析 ・アンケート結果に基づく個別指導の実施 (2) 治療勧告後の治療率向上 ・保健だより、メール配信によ | (1) 朝食摂取率が県平均を上回る。 (2) 治療率60%以上。 | 保健課 |

様式第1号

| | | | | |
|---|---|--|---|-----------------------------|
| | | <p>る生徒・保護者への周知徹底。 ・担任を通じての指導、個別の面談指導を実施</p> | | |
| | | <p>授業、部活動を通じた体力の向上</p> | <p>新体力テスト男女優秀校（10年連続）</p> | <p>体育科</p> |
| | | <p>運動部、文化部とも「部活動ガイドライン」に基づき、部活動において適切な休養日を設けるなど、計画的かつ効果的な指導を行う。</p> | <p>・「本校では、生徒が健康で安全な学校生活を送れるように、健康指導、安全指導が適切に行われている。」と答える教員70%以上 ・各月ごとに活動計画を作成する。</p> | <p>全職員</p> |
| オ | <p>自己肯定感を高め、仲間と共に安心して過ごすことのできる学習環境の整備</p> | <p>(1) 特別支援コーディネーター、保健室、学年などが連携した生徒相談体制を確立する。 (2) 心の健康アンケートを活用して生徒に寄り添った支援を行う。</p> | <p>・生徒に関する情報交換・ケース会議を積極的に行う。 ・心の健康アンケートを年2回（6月、11月）実施する。 有意義な学校生活を送っていると答える生徒を増やすとともに悩みを抱えている生徒に対しては面談等のきめ細かな支援を行う。</p> | <p>相談室 保健室 人権教育</p> |
| カ | <p>人権を尊重し、多様性を認め合う共生・共育による豊かな人間性の育成</p> | <p>南の丘分校をはじめとする特別支援学校との交流による共生・共育の推進</p> | <p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、学校行事、部活動、生徒会活動、授業等における南の丘分校生徒の交流年間20回以上、その他の学校3回以上 ・「私は南の丘分校との共生・共育の意義を理解している。」と答える生徒90%以上</p> | <p>共生・共育委員会</p> |
| | | <p>コンプライアンス委員会や職員研修を通じて生徒への対応や言葉遣いなど職員の人権意識の高揚を図る。 保健室や特別支援コーディネーター、学年などと連携して生徒に関する情報交換・ケース会議を積極的に行う。</p> | <p>「私は、人権意識に配慮し、人権尊重の意識を持って教育活動を行っている。」と答える教員80%以上</p> | <p>全職員</p> |
| | | <p>・人権に配慮した人間関係づくりのために必要な行動や配慮について、外部専門家より教員（年2回）・生徒に研修を実施する。 ・研修成果を授業、学校行事、部活動等学校教育におけるすべての活動で実践する。 ※令和5・6年度人権教育研究指定校事業を活用した人権教育の推進</p> | <p>・静岡県人権教育の手引き「教職員の人権感覚チェックシート」の利用100% ・職員が日常的に自身の人権感覚を振り返ることができるようになる。</p> | <p>人権教育研究チーム 研修課</p> |
| キ | <p>地域連携を推進し、SDGsを意識した他者との協働</p> | <p>・中学校訪問、1日体験入学、オープンスクールなどを通して、中学生や保護者に向けて、</p> | <p>・「本校はホームページや公開授業を通じて、学校の情報を保護者や地域に積極的に公開し</p> | <p>広報特設チーム</p> |

様式第1号

| | | | | |
|---|--------------------------------------|--|---|-------------------------|
| | による社会への寄与 | 総合学科の学習内容等の情報提供を行う。 | ている」と答える保護者 80%以上 | |
| | | (1) わかりやすい・伝わる・見たい、学校HPを目指すレイアウト等の整備 (2) 学校HPを行事等の際に随時更新し、学年、分掌、系列、部活動等の積極的な情報発信 (3) 学校通信やHPを通して、広報活動を計画的に行うとともにマスメディアへの情報提供を積極的に行う。 | (1) 学校HPの更新回数 100 回以上 (2) 「本校は、ホームページや公開授業等を通じて、学校の情報を保護者や地域に積極的に公開している。」と答える保護者80%以上 (3) 学校通信 2 回以上、マスメディア掲載回数 20 回件以上 | 情報管理課 総務課 |
| | | (1) 中学生 1 日体験入学・オープンスクールを実施する。 (2) 内規集、研修資料等を P D F で配布する。 | (1) 年 3 回以上、地域へ公開の機会を持ち、多様なメディアで学校の魅力を地域に発信する。 (2) 意識して紙資源を削減する。 | 研修課 |
| | | SDG s を軸に、都市型総合学科高校としての教育活動の整理と体系化（授業実践、進路指導等を含む） | ・研究発表や交流活動等に積極的に参加する生徒30人以上 ・先進的実践の情報収集に臨む職員（延）10人以上 | 総合学科企画課 教務課 進路指導課 |
| | | (1) P T A 活動の活性化を図る。 (2) 地域防災訓練の積極的参加の呼びかけと参加状況分析を行う。 | (1) P T A 総会・学年別保護者会の参加率併せて 60%以上 (2) 地域防災訓練参加率 60%以上 | 総務課 |
| ク | 生徒の学びを支える事務運営の効率化、円滑化と教育環境の充実 | 効率的で適正かつ正確な事務処理を実施し、校内外の環境整備を充実させる。 | ・監査での指摘 0 件 ・時間外勤務月平均 20 時間以下 ・要求調書を活用した効果的な予算執行の実現 | 事務部 |
| | | ICT 環境の整備 | ・iPad・ノート PC 等 ICT 機器の状態やネットワーク接続状態の確認を月 1 回以上 | 情報管理課 |
| | | メール配信システムを効率的・積極的に活用する。 | 生徒のメール登録 90%、メール配信 50 回以上 | 総務課 |
| ケ | 業務の効率化による生徒との対話時間確保と職員のワークライフバランスの実現 | 自動採点システムの利用の促進 | 利用する教員 50%以上 | 教務課 |
| | | 職員は定時退勤日を週 1 日設定する。また、管理職は職員に声をかけるとともに金曜日を定時退勤日とし、確実な実施に努める。 | 職員の定時退勤の推進とめりはりの実現 | 管理職 |